

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	学生による地域課題解決事業「タテシナソン」
事業主体 (連絡先)	立科町企画課 (電話：0267-88-8403)
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,803,600 円 (うち支援金：1,352,000 円)

事業内容

地域産業の活性化を図るため、町内事業者が抱える課題を、若者のアイデアを活用して解決する創造的な学生アイデアソン企画「タテシナソン」を実施した。

平成30年9月7日(金)～8日(土)に立科町ふるさと交流館「芦田宿」をメイン会場とし、全国や地元から18名の大学生や高校生が参加し、町内木材加工販売事業者が抱える課題「先代から引き継いだ大量の在庫木材の価値化・商品化について」に挑戦した。

多くの町民が参加した公開プレゼンテーションでは、28時間の現地調査や議論の末、各チームからアイデアが披露され、課題提供事業者が取組むアイデアに対して「タテシナソン大賞」が贈られ、参加者全員に「タテシナソン民票」を手渡した。

事業効果

公開プレゼンテーションによって提案された複数のアイデアは、事業者によって実現に向けて取組まれることとなったため、今後事業化を支援し、進捗を確認していく。

また、参加学生の募集や当日の実況として、ウェブページやSNSで広く周知を行った結果、10万回を超えるインプレッション・再生数となったことで、首都圏の複数の大学から参加があったため、意欲ある学生達と当町の関係性を構築することができた。

併せて町内出身の高校生が複数名参加したことや公開プレゼンテーションに町民が来場したことから交流につながった。

今後の取り組み

町内の複数の事業者がタテシナソンに課題提供を行い、提案されたアイデアを実現化していくことで、当町経済の底上げを図りたい。

参加学生のアンケートから、他参加学生との交流を望む意見や、次回以降、当企画のスタッフとしての関わりを希望する意見が多数あった。そのため、今後も当町とのつながりを継続させるために、SNSを活用した情報提供やアイデアが商品化される段階において、参加学生を集めて県庁で記者会見を行いたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【公開プレゼンテーションの様子】

【目標・ねらい】

- ①事業者の課題を解決するアイデアを生み、地域の活性化を図る。
- ②当町と意欲ある学生達との関係を構築する
- ③首都圏の学生と当町住民の交流を図る

※自己評価【 B 】

【理由】

企画内容や、イベントの構成、参加学生数など、当初予定とほぼ同様の成果となった。提案されたアイデアは順次実現に向けて取組んでいく。今後、参加学生と当町の関係性をどのように発展させていくか検討が必要である。